

( 俳句用語私考 )

## 第二芸術

江連晴生 記

( 「 鬼怒 」 搭載原稿 ・ 2002/8/18 )

「昭和二十一年十一月号の『世界』（岩波書店）・桑原武夫（フランス文学者）・『第二芸術…現代俳句について…』・青畝・草田男・草城・風生・井泉水・蛇・たかし・亜浪・虚子・秋桜子」…、これが「第二芸術」のキーワードである。桑原武夫の「俳句第二芸術論」の要旨は、「小説や近代劇などの第一芸術に比すると俳句は第二芸術である」・「その理由は有名作家（上掲キーワードの作家）の作品と素人の作品との区別がつきかねる」・「俳句作品自体によって作家の地位を決定することが困難である以上、俳人の地位は俳壇的勢力のようなもので決まるようになり、そのような体質は非難されて然るべきである」ということになる。この半世紀以上前の「俳句第二芸術論」の功罪はもはや語り尽くされており、ここでそれに屋上屋を重ねるようなことはどうにも気が進まない。ただ一つ、まだ誰も触れていないようなことで、「現代俳句においても桑原流の『第一俳句（芸術性・文芸性・俳諧性などを自覚的に追求する俳句）と第二俳句（その第一俳句以外の俳句）』とに峻別される」のではなかろうか…、という仮説である。この仮説でいくと、現在の「鬼怒」の多くの作家が目指しているのは、いわゆる、その「第一俳句」のような、そんな仮説の仮説を、時に、思い浮かべるのである。